

院内学級に通う児童生徒に対するストレスマネジメント

- 構成的グループエンカウンター・アサーショントレーニングを取り入れて -

曾山和彦

(秋田県総合教育センター)

【目的】

院内学級とは、慢性疾患を伴う入院児童生徒に対して病院内に設置される学級である。本研究では、院内学級へ通う生徒に対し、構成的グループエンカウンター（以下、SGE）、アサーショントレーニング（以下、AT）を実施し、生徒のストレス反応の軽減に及ぼす効果について検討した。

【方法】

対象生徒； A男。中学 年生。慢性疾患による入院1年以上。長期入院に伴うストレス反応（特に不機嫌・怒り感情）が見られ、友人や教師に対してネガティブな感情をぶつけることが多い。

SGE, AT実施期間と回数； SGEは平成 年5月～6月に6回、ATは6月～7月に6回（表1）

表1．SGE, ATの実施エクササイズ及び題材名

回	SGEのエクササイズ名	ATの題材名
1	さんを知る自己紹介ゲーム	上手な断り方
2	二者択一	上手な断り方 その2
3	私を語る10のキーワード	元気の出る聴き方
4	エゴグラム	元気の出る聴き方 その2
5	宇宙船での選択	私のお願い聞いて
6	四つの窓	しっかりと断ろう

測定尺度； 社会的スキル尺度（友人関係の維持，友人関係の向上，友人との関係づくり，自己主張，教師との関係づくりの5下位尺度34項目：戸ヶ崎他，1997の尺度を一部加除修正） ストレス反応尺度（不機嫌・怒り感情，抑うつ・不安感情，身体的反応，無気力の4下位尺度22項目：三浦他，1995の尺度を一部修正）の2尺度を用いた。

手続き；上記 の測定尺度からなる質問紙をSGE，ATの事前事後（4月と7月），A男に実施した。また，

SGE, ATの実施後，A男，担当教師（2名）に振り返り用紙への記述を求めた。

【結果】

質問紙に対するA男の自己評定から（表2）

社会的スキルの変化

総合的に社会的スキル得点が増加し，特に「自己主張」得点の増加が顕著であった。

ストレス反応の変化

総合得点をはじめ，全ての下位変数において得点が減少した。

A男の振り返りから

- ・ATはこれまでの勉強で一番楽しかった。
- ・共感して聴くことが大切だとわかった。

教師の振り返りから

・学級全体での活動の楽しさに気づきはじめ，「一緒にゲームをしよう」というような言葉が多く聞かれるようになった。

・「アサーション」の意味を理解し，相手も自分も大切にするかかわり方が日常の中で多く見られるようになった。

【考察】

本研究では社会的スキル得点の中でも，特に「自己主張」得点が増加し，また，ストレス反応得点が減少した。さらに，A男，および教師の振り返り記述にはプラス面の変容が多く記されていた。これらの結果からSGE, ATの効果を示唆されたと考えられる。院内学級には様々な病気を抱えた子供たちが通ってくる。それゆえ，個々の実態に応じたストレスマネジメントの検討は欠かせないが，SGE, ATを取り入れた指導は，退院に向けてのエネルギーを蓄えるために効果的なアプローチ技法であるということが本研究から示された。

キーワード；院内学級，ストレスマネジメント，構成的グループエンカウンター

表2．A男の社会的スキル得点及びストレス反応得点の変化

社会的スキル変数(満点)	4月	7月	ストレス反応変数(満点)	4月	7月
総合(136)	99	104	総合(88)	64	51
友人関係の維持(36)	23	21	不機嫌・怒り感情(28)	24	20
友人関係の向上(44)	38	41	抑うつ・不安感情(24)	18	15
友人との関係づくり(28)	20	21	身体的反応(32)	18	13
自己主張(28)	15	22	無気力(16)	14	11
教師との関係づくり(8)	8	8			